



思い出に残るもの

校長 今福 眞和

パリオリンピックでの選手たちの活躍は、メダルを取れたかどうかに限らず感動を与え、思い出に残るシーンがたくさんありました。そして観客のフェアな応援も、とても印象に残った大会でした。

夏休みの間に6年生が日光林間学園に行ってきました。日光東照宮、華嚴の滝などの名所巡り、湯の湖・戦場ヶ原ハイキング、日光江戸村見学、益子焼体験等、様々なものを見聞きし、体験し学んできました。宿泊行事のもう一つの大きな目的として、仲間との共同生活が挙げられます。集団で宿泊する行事には少しの緊張感が伴います。「自分で考え行動すること」「仲間と協力してチームで行うこと」が交互に何度も訪れます。それぞれが自分で考えたことを出し合うと、仲間同士の声の掛け合いが増えていきます。5分前行動など、チームとしてできたことが自信につながり、共同生活の良さを実感していきます。出発式の子どもたちは、これからの3日間に期待とわくわく感をもち、目が輝いています。3日間の共同生活を終えた帰校式では少しの疲れが見られるものの、その眼差しや態度は一回り成長した、たくましさをいつも感じます。宿泊行事での子どもたちの変容はとても大きなものなのです。この3日間で身に付けた仲間意識、自発的な行動、チームプレーは、宿泊行事が終わった後も続いていきます。そして大人になって宿泊行事を思い出するとき、真っ先に思い出すのは仲間と過ごした楽しい時間なのでしょう。

今回は直前の激しい雷雨のため、予定していたキャンプファイヤーを実施できませんでした。しかし5年生の時の川場移動教室でも雨天で実施できなかったこともあり、子どもたちの思いと、それを受けた担任の先生たちの「どのような形でも実施したい」という思いはとても強いものでした。そこで宿の方と同泊していた小学校のみなさんのご理解とご協力を得て、宿の駐車場をお借りして、ランタンの灯による光のキャンプファイヤーとして実施することができました。大きな炎を囲むことはできませんでしたが、ランタンで積まれた光の塔を囲み、準備してきた歌やゲームやダンスを楽しむことができました。私自身も初めての経験でしたが、どのような環境や条件であっても、心から楽しむ子どもたちの姿は、とても頼もしく映りました。

私的なことですが夏休み中に、かつて勤務した葛飾区の小学校の教職員の同窓会があり、とても嬉しい報告を受けました。当時は私も一担任でしたが、同じ学年だった先生が「今福さんに見せたい写真があります。覚えていませんか」と一枚の写真を見せてくれました。その写真には工具を手に作業しながらにっこり微笑む一人の若者が映っています。一目でかつての教え子だと分かりました。「6年生の時の〇〇さんですよ。今、私の学校の用務主事さんとして一緒に働いています。今福先生に元気で頑張ってますとお伝えくださいと言っていました。」との事。そうです！〇〇さんです。年月が経つとすぐに名前が出てこないこともありますが、名前を言われれば100%思い出します。成人となってもその面影は残っており、すぐに記憶は蘇ります。私たち教職員にとっても子どもたちと過ごした日々は、決して忘れることのない思い出なのです。

2学期も仲間と共に過ごす思い出を、一つ一つ重ねてほしいと思います。